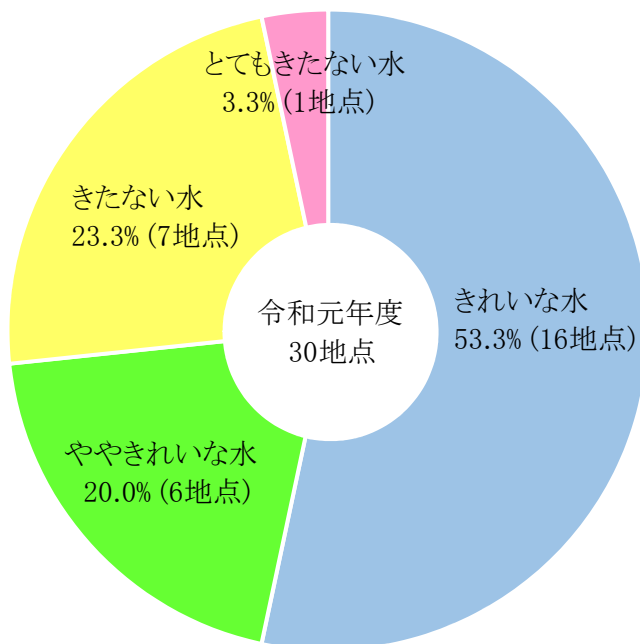


2. 調査結果

(1) 水質階級別調査地点数の割合

水質階級別調査地点数は、図 1 に示すとおり、水質階級が“きれいな水”と判定された地点は 16 地点(53.3%)、“ややきれいな水”と判定された地点は 6 地点(20.0%)であった。

一方、“きたない水”と判定された地点は 7 地点(23.3%)、“とてもきたない水”と判定されたのは 1 地点(3.3%)であった。



<図 1> 水質階級別調査地点数の割合

(2) 前年度に対する水質階級の比較

令和元年度の調査地点 30 地点のうち 23 地点が平成 30 年度と同じ地点での調査であった。このうち、前年度指標となる生物が発見されず水質階級が不明であった 1 地点を除く 22 地点の水質階級を比較すると、同じであったところが 16 地点、良くなったところが 5 地点、悪くなったところが 1 地点であった。(表 2)

<表 2> 前年度に対する水質階級の比較 (前年度と同一地点で実施された地点の比較)

	前年度より良くなった	前年度と変わらない	前年度より悪くなった	全地点数
調査地点数	5	16	1	22
割合 (%)	22.7	72.7	4.5	100

(注) 割合については四捨五入のため、合計が 100%にならないことがある。

(3) 水生生物調査結果一覧

水生生物調査結果一覧を表 3 に示す。

(4) 指標生物の出現状況

指標生物の出現頻度及び最も数が多いと報告された指標生物(優占種)の出現頻度は、表 4 のとおりである。

＜表 4＞ 指標生物の出現頻度及び優占種となった指標生物の出現頻度

水質階級	指標生物	指標生物(○+●)		出現割合(%)	優占種(●)	
		頻度(回)	割合(%)		頻度(回)	割合(%)
I きれいな水	1 アミカ類	1	0.5	44.7	0	0.0
	2 ナミウズムシ	16	8.1		4	6.6
	3 カワゲラ類	9	4.6		2	3.3
	4 サワガニ	13	6.6		4	6.6
	5 ナガレトビケラ類	10	5.1		5	8.2
	6 ヒラタカゲロウ類	15	7.6		3	4.9
	7 ブユ類	5	2.5		1	1.6
	8 ヘビトンボ	4	2.0		0	0.0
	9 ヤマトビケラ類	8	4.1		0	0.0
	10 ヨコエビ類	7	3.6		5	8.2
II ややきれいな水	11 イシマキガイ ※	4	2.0	27.4	1	1.6
	12 オオシマトビケラ	5	2.5		2	3.3
	13 カワニナ類	13	6.6		6	9.8
	14 ゲンジボタル	0	0.0		0	0.0
	15 コオニヤンマ	8	4.1		2	3.3
	16 コガタシマトビケラ類	10	5.1		4	6.6
	17 ヒラタドロムシ類	9	4.6		2	3.3
	18 ヤマトシジミ ※	5	2.5		2	3.3
III きたない水	19 イソコツブムシ類 ※	1	0.5	18.3	0	0.0
	20 タニシ類	9	4.6		3	4.9
	21 ニホンドロソコエビ ※	3	1.5		1	1.6
	22 シマイシビル	10	5.1		5	8.2
	23 ミズカマキリ	1	0.5		0	0.0
	24 ミズムシ	12	6.1		4	6.6
IV きとたない水	25 アメリカザリガニ	0	0.0	9.6	0	0.0
	26 エラミズ	2	1.0		0	0.0
	27 サカマキガイ	8	4.1		3	4.9
	28 ユスリカ類	6	3.0		2	3.3
	29 チョウバエ類	3	1.5		0	0.0
合計		197	100	100	61	100

(注) ※は、海水の少し混ざっている汽水域の生物

(注) 割合については四捨五入のため、合計が 100%にならないことがある。